

【中学校 国語】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の中学校国語の平均正答率は55%で、全国平均と比べ▼3.1%、県平均と比べ▼1.0%という結果でした。

学習指導要領の内容に着目すると、「知識及び技能」では、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が71.2%(全国75.6%、県74.3%)と全国及び県平均を大きく下回り、「思考力、判断力、表現力等」では、「書くこと」の平均正答率は全国及び県平均と差異は見られないものの、「話すこと・聞くこと」においては、全国及び県平均を大きく下回っています(▼1.8~4.4%)。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点ともに、全国及び県平均を下回っています(「知識・技能」▼2.3~3.4%、「思考・判断・表現」▼1.4~2.3%)。

問題形式別に見ると、特に「短答式」に課題があることが伺えます(▼2.1~3.9%)。

正答数分布グラフからは、正答率の高い正答数12~14問の割合が低いのが、本市の特徴です。

2 特徴が見られた問題

「話すこと・聞くこと」の領域においては、全国の平均正答率を4.4ポイント、県を1.8ポイント下回っており、特に「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」問題に課題が見られます。《以下、その問題》

1-2

【話し合いの一部】の線部②「」のこのあたりにいるような感覚ですね。」について、の中で、藤田さんが指し示していると考えられる部分を○で囲みなさい。

※ 右のは、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

《解説》

藤田さんの「和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします」という発言の内容が、の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」に当てはまり、の点線の内側に当たることを理解している。その上で、藤田さんが、聞き手に分かりやすく伝えるために、の点線の内側を指し示しながら、「」のこのあたりにいるような感覚ですね。」と発言していることを捉えることができている。

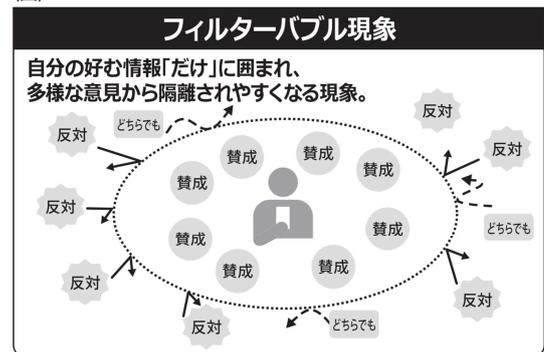
(「令和6年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」より抜粋)

3 これからの学習に当たって

主に「話すこと・聞くこと」の領域に課題が見られるため、授業の中に話し合い活動を多く取り入れるなど、対話的な活動を重視する必要があります。また、他者に対して、資料やデータ等を活用し、根拠を基に説明する活動を取り入れるなどの授業改善に努める必要があります。

昨年度の課題であった、記述式の無回答率については、3問ともに県平均以下となり、改善傾向が見られるため、引き続き粘り強く学習に取り組む態度の育成に努める必要があります。

(図)



【正答(例)】

(図)

